

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 21 年 7 月 2 日 (2009.7.2)

【公表番号】特表 2009-502291 (P2009-502291A)
 【公表日】平成 21 年 1 月 29 日 (2009.1.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2009-004
 【出願番号】特願 2008-523484 (P2008-523484)
 【国際特許分類】

A 6 1 J 3/07 (2006.01)

B 6 5 B 1/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 J 3/07 H

B 6 5 B 1/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 5 月 13 日 (2009.5.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

製薬材料の粒子 (12) を収容する蓋と本体 (3、4) とを有するタイプの硬質ゼラチンカプセル (C) を製造するためのカプセル充填機 (10) において、

最初に前記カプセルの前記蓋 (3) と前記本体 (4) とを分離した後に組み合わせることにより前記カプセル (C) を開いて閉じるために前記カプセル (C) を保持及び取扱うための複数のスライドユニット (5) を取付ける回転カルーセル (2) と、一服分量の前記粒子 (12) をそれぞれの前記カプセルの本体 (4) 内に充填するために前記粒子 (12) を前記カルーセル (2) に供給するための手段 (11) とを備え、

前記供給手段 (11) が前記粒子 (12) の密集体を収容する少なくとも一つのホッパ (13) と、前記ホッパ (13) 内の前記粒子 (12) の密集体に部分的に浸されるローラ手段 (14) とを備え、該ローラ手段 (14) が、前記ホッパ (13) から取り出す規定数の前記粒子 (12) を収容及び保持且つ次に前記粒子 (12) を前記カルーセル (2) に取り付けた一続きの中空の導管 (16) 内に解放するための複数の吸引凹部 (15) を有することを特徴とするカプセル充填機。

【請求項 2】

中空の前記導管 (16) が、前記カルーセル (2) 自体と一体となって回転するように前記カルーセル (2) に取付けられたディスク状 (17) 要素に均等に振り分けて配置されている請求項 1 に記載のカプセル充填機。

【請求項 3】

前記導管 (16) が、前記ローラ手段 (14) から落下する前記粒子 (12) を集積し且つ前記粒子 (12) を前記カプセル (C) の本体内に入れるために概略漏斗形状になっており、前記ローラ手段 (14) の前記凹部 (15) から落下する前記粒子を集積するために前記導管 (16) の底側端部を閉じるための往復動プレート手段 (18) が設けられている請求項 1 又は請求項 2 に記載のカプセル充填機。

【請求項 4】

前記ローラ手段 (14) の前記凹部 (15) が、規定数の前記粒子 (12) で適切に満たされていることを確認するための検出手段 (20) をさらに備えている請求項 1 から請

求項 3 の何れか一項に記載のカプセル充填機。

【請求項 5】

前記カプセル充填機が回転摺切手段（１９）をさらに備え、該回転摺切手段（１９）が前記ローラ手段（１４）と連結されており、中空の前記凹部（１５）が正確に満たされ且つ過剰な前記粒子（１２）を前記ホッパ（１３）の前記密集体内に戻すように設計されている請求項 1 から請求項 4 の何れか一項に記載のカプセル充填機。